

報道関係者各位

YRP ユビキタス・ネットワークング研究所

ユビキタス ID 技術をベースとした技術規格が、
ITU-T 勧告として国際標準の合意（Consent）成立

YRP ユビキタス・ネットワークング研究所（東京都品川区、所長：坂村健・東京大学教授）では、ユビキタスコンピューティング、ユビキタスネットワーク技術に関する研究開発を推進しております。更に、その成果は、ユビキタス ID センターによって産業界等への普及と標準化が進められてきました。

YRP ユビキタス・ネットワークング研究所では、2005 年より、ITU-T（国際電気通信連合・電気通信標準化部門、本部：スイス・ジュネーブ）^(注1)において、当研究所の成果を国際標準化する活動を進めてまいりました。これまで当研究所から提案しエディタ職を務めてきた二つの規格 F.MID、H.MID^(注2)が、今回の ITU-T Study Group 16 会合（期間：2008 年 4 月 22 日～5 月 2 日、場所：スイス・ジュネーブ・ITU 本部）において、ITU-T 勧告（ITU-T Recommendation）として合意（Consent）されました。

これは、電子タグ等を使って、ネットワークを介した情報サービスを行う、ネットワーク型情報サービスに関する基盤技術の初めての国際標準です。F.MID（F.771）は、RFID 等のタグ情報の読み込みをきっかけとして提供されるネットワーク型の複合メディア情報サービスに関する要求要件事項に関する勧告です。また、H.MID（H.621）は、それを実現するためのアーキテクチャを定めた勧告案で、当研究所が開発したユビキタス ID アーキテクチャをベースとしています。今までの、電子タグの主要な応用である物流だけでなく、食品トレーサビリティや場所依存型情報サービス、自律移動支援サービスといった、幅広い応用に適用することができます。

今回の標準化は、単に日本の要素技術が国際標準に取り入れられたというだけでなく、ITU の中でユビキタス分野の標準化活動を提案し、リードし続け、要求要件項目やアーキテクチャという、国際標準化活動の土台を確立したことの意義が大きいと考えています。今後、この枠組みの中に、日本だけでなく、世界各国の技術を取り入れながら、ユビキタス ID 技術の世界的な普及を目指したいと考えています。

今後、Study Group 16 会合の後、早期に成立できる承認プロセスである、代替承認手続き（AAP：Alternative Approval Process）によって、ITU-T 参加メンバー全体の承認プロセスに入り、他メンバーからの反対提案がなければ、ITU-T 勧告として成立します。また、今後、更に詳細な技術の国際標準化も進められており、今回の Study Group 16 会合で H.IDscheme と H.IRP という 2 つの新規の標準化作業項目^(注3)が承認されました。H.IDscheme は、ucode を含んだ ID コード体系の国際標準です。H.IRP は、ucode 解決サーバーの規格を含んだ国際標準です。双方とも YRP ユビキタス・ネットワークング研究所がエディタ職を務めて、今後さらに多くの技術項目の国際標準化を進めていく予定です。

(注1) ITU は、International Telecommunication Union (国際電気通信連合) の略で、国際連合の専門機関の一つです。電気通信分野と無線通信分野における各国間の標準や規制を確立することを目的としています。ITU は、1865 年 5 月 17 日にフランスのパリで設立された万国電信連合から始まっており、世界最古の国際機関とみなされています。本部は、スイス・ジュネーブに設置されています。

ITU-T は、ITU の電気通信標準化部門 (Telecommunication Standardization Sector) で、通信分野の標準策定を行っており、標準規格は勧告 (Recommendation) という形をとっています。

ITU のウェブページ : <http://www.itu.int/>

(注2) F.MID、H.MID はいずれも、審議中のドラフト版勧告案のコード名です。合意 (Consent) の後、ITU-T の承認プロセス (AAP : Alternative Approval Process) の際に番号が与えられて、最終的に F.771、H.621 という勧告になる予定です。

- F.MID : “Service description and requirements for multimedia information access triggered by tag-based identification”
- H.MID : “Tag-based ID triggered multimedia information access system architecture”

(注3)

今回の Study Group 16 会合で承認される予定の新しい作業項目は以下の通りです。

- H.IDscheme : “ID schemes for multimedia information access triggered by tag-based identification” 「RFID 等のタグ情報の読み込みをきっかけとして提供される複合メディア情報サービスのための ID スキーム」 (合意予定 : 2009 年)
- H.IRP : “ID resolution protocols for multimedia information access triggered by tag-based identification” 「RFID 等のタグ情報の読み込みをきっかけとして提供される複合メディア情報サービスのための ID 解決プロトコル」 (合意予定 : 2009 年)

関連組織のウェブページ

- YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所 <http://www.ubin.jp/>
- ユビキタス ID センター <http://www.uidcenter.org/>
- T-Engine フォーラム <http://www.t-engine.org/>

なお、今回合意される予定の勧告案には、以下の委託研究の研究成果の一部を含んでいます。

- (独) 情報通信研究機構 : 「ユビキタスコンピューティング環境を実現する基盤ネットワークプロトコルの研究開発」 (平成 13~17 年度)
- 総務省 : 「ユビキタスネットワーク基盤技術の研究開発」 “超小型チップネットワーキング技術” (平成 15~19 年度)
- 総務省 : 「アジアユビキタスプラットフォームに関する研究開発」 (平成 17~19 年度)
- 文部科学省 : 「安全なユビキタス社会を支える基盤技術の研究開発」 “セキュア・ユビキタス・コンピューティング・プラットフォーム” (平成 17~19 年度)

【本件に関するお問い合わせ】

YRP ユビキタス・ネットワーキング研究所(担当:越塚、柏)

TEL: 03-5437-2270

URL: <http://www.ubin.jp/>

e-mail: press@ubin.jp